

わたち

令和2年11月27日 第32号

産山の教育 に学ぶ！

先週、宮崎県の小林市の須木地区「すきむらづくり」協議会の皆さん8人が学園を訪問されました。感染症対策をしてお迎えしたのですが、皆さん子供たちの姿、そして産山村の教育に高い関心を示されました。中でも大きく以下の2点です。

まず、1点目。それは、ICT教育です。今、全国の小・中学校はGIGA(ギガ)スクールの大波が押し寄せています。子供たちに一人1台のタブレットPCを届け、それを近い将来の人材育成に活用するというものです。皆さん、ご存知のように産山学園では、平成26年、旧産山小・中学校の時代に一人1台のタブレット環境を県下に先駆けて整備してきました。ですから、ギガスクール！と大騒ぎすることなく古いタブレットPCは新しいタブレットPCに移行するだけです。今後は、ゆとりをもって授業での活用をさらに進めながら、家庭学習等に広げていくことになります。

次に、2点目は、教育委員会が主管する保育園です。これも、ご存知のように保育園の管轄は厚生労働省で、幼稚園が文部科学省の管轄です。それでもこの村に住み、この村で子育てをされている方々に「この村に住んでよかった、学ばせてよかった」と思ったださる様に「村民ファースト」、ワンチームの村とするための工夫なのです。そこに産山学園も村の教育を進めている一員であることを高く評価していただきました。

保育園、産山学園が一体的に村の教育に取り組む…そんな熊本県、いや日本でも有数の教育先進地がこの産山なのです。

村上 拝

「365歩のマーチ」にのせて
♪が〜くりょくはワンツーパン
チ！汗かきべそかき歩こうよ♪

今年度4月、「臨時休業中にどう学びを保障するか」、「残された期間に1年間の学習内容をやり終えるにはどうすればよいか」、全職員で知恵を出し合いました。このときは、どうやって授業時数を確保するかで頭がいっぱいでした。

あれからまもなく8ヶ月が経ちます。振り返ると、「学園の子供たち、そして先生たちって、熊本地震を経験しているから強いなあ」と感じます。なぜなら、子供たち、先生たち、みんなは「どんなに困難でもあきらめず、前向きに前進する」からです。

「1年間の学習をやり終えることが『学びの保障』ではない。『わかる・できる・楽しい授業』を子供とつくり、一人一人の子供に伸びが見られることが本当の意味での『学びの保障』である！」全職員で、校内研修の時に、確認した方向性(目標)です。

そんな学園の私たちが教育委員会もサポートしてくださり、分析結果や対応の仕方について助言をたくさんいただきました。

この8ヶ月、コロナ禍の中、真面目にこつこつ、一歩ずつ一歩ずつ前進してきたチーム産山学園！12月4日(金)には研究発表会、12月7・8日(月・火)には県学力調査に臨みます！そこで明らかになった成果と課題は、よりよい2021年にするための大切な糧になることでしょうか！

♪腕を振って 足を上げて ワンツーワン
ツー 休まないで歩け ソレ ワンツーワン
ツーワンツーワンツー♪ 今村 拝

ここで学園生に

クイズです！なぜ、
ここにチーターの絵が
あるのでしょうか。

